

公報

○太政官連第六十四號 官省院廳府縣 今般修史館中、兩總裁、置、明治十四年(十二月)第百八

○明治十六年十月廿四日 叙任 馬場 政行 足立 直躬 江澤 善行 大竹 康造 小磯力三郎 栗原 紘 栗田 八郎 大井上久磨 高島 士敏 青木 住興 齋藤 正志 山田 秀治 馬島 爲之 荒井 多門 桂 彦馬 末川 久敬 西村 拾三 西村 拾三 高平小五郎

○明治十六年十一月廿一日 叙任 馬場 政行 足立 直躬 江澤 善行 大竹 康造 小磯力三郎 栗原 紘 栗田 八郎 大井上久磨 高島 士敏 青木 住興 齋藤 正志 山田 秀治 馬島 爲之 荒井 多門 桂 彦馬 末川 久敬 西村 拾三 西村 拾三 高平小五郎

○明治十六年十一月廿一日 叙任 馬場 政行 足立 直躬 江澤 善行 大竹 康造 小磯力三郎 栗原 紘 栗田 八郎 大井上久磨 高島 士敏 青木 住興 齋藤 正志 山田 秀治 馬島 爲之 荒井 多門 桂 彦馬 末川 久敬 西村 拾三 西村 拾三 高平小五郎

○明治十六年十一月廿一日 叙任 馬場 政行 足立 直躬 江澤 善行 大竹 康造 小磯力三郎 栗原 紘 栗田 八郎 大井上久磨 高島 士敏 青木 住興 齋藤 正志 山田 秀治 馬島 爲之 荒井 多門 桂 彦馬 末川 久敬 西村 拾三 西村 拾三 高平小五郎

我々の耳朶に達するモ、ナキハ實ニ我々が豫想外の事相 ナリト云ハザルを得ズ

抑モ此爲ノ原因ハ何レニ在リヤト問フニ近年佛國西ガ 大ニ其勢力ヲ安南地方ニ振ヒ其所領サイゴン一帯ノ地ヲ 根據トシテ漸ク其隣境ニ進リ千八百七十四年ニ安南國ト

其結果ハ北京ニテ佛國アリ、公使ト談判ト爲リ、リ 其結果ハ北京ニテ佛國アリ、公使ト談判ト爲リ、リ

其結果ハ北京ニテ佛國アリ、公使ト談判ト爲リ、リ 其結果ハ北京ニテ佛國アリ、公使ト談判ト爲リ、リ

其結果ハ北京ニテ佛國アリ、公使ト談判ト爲リ、リ 其結果ハ北京ニテ佛國アリ、公使ト談判ト爲リ、リ

○十二月十九日 電報 英國海軍ハンコウ號は香港の守 衛兵を増援するた兵九百を積載して出發せり

○十二月二十日 電報 佛軍は遠に山西を陥したれ共爲 に死傷多かりし

○十二月二十二日 電報 愛蘭代議士ハアナル氏之ヲナリ 府に於て人民より輿論金三万八千鎊を受取るの際人 民が堅忍不拔を稱し且つ愛蘭の獨立は得て稱すべきと 深く自信する旨を述べたり

○十二月二十二日 電報 愛蘭代議士ハアナル氏之ヲナリ 府に於て人民より輿論金三万八千鎊を受取るの際人 民が堅忍不拔を稱し且つ愛蘭の獨立は得て稱すべきと 深く自信する旨を述べたり

○十二月二十二日 電報 愛蘭代議士ハアナル氏之ヲナリ 府に於て人民より輿論金三万八千鎊を受取るの際人 民が堅忍不拔を稱し且つ愛蘭の獨立は得て稱すべきと 深く自信する旨を述べたり

○十二月二十二日 電報 愛蘭代議士ハアナル氏之ヲナリ 府に於て人民より輿論金三万八千鎊を受取るの際人 民が堅忍不拔を稱し且つ愛蘭の獨立は得て稱すべきと 深く自信する旨を述べたり

○十二月二十二日 電報 愛蘭代議士ハアナル氏之ヲナリ 府に於て人民より輿論金三万八千鎊を受取るの際人 民が堅忍不拔を稱し且つ愛蘭の獨立は得て稱すべきと 深く自信する旨を述べたり

○十二月二十二日 電報 愛蘭代議士ハアナル氏之ヲナリ 府に於て人民より輿論金三万八千鎊を受取るの際人 民が堅忍不拔を稱し且つ愛蘭の獨立は得て稱すべきと 深く自信する旨を述べたり

○十二月二十二日 電報 愛蘭代議士ハアナル氏之ヲナリ 府に於て人民より輿論金三万八千鎊を受取るの際人 民が堅忍不拔を稱し且つ愛蘭の獨立は得て稱すべきと 深く自信する旨を述べたり

○十二月二十二日 電報 愛蘭代議士ハアナル氏之ヲナリ 府に於て人民より輿論金三万八千鎊を受取るの際人 民が堅忍不拔を稱し且つ愛蘭の獨立は得て稱すべきと 深く自信する旨を述べたり